

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	金沢市立兼六中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	6	5	6	0	17	27
生徒数	214	195	234	0	643	

研究の概要

1. 研究主題

<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマ 「学習意欲を高める指導の工夫」(学ぶ意欲の向上をめざして) ・テーマ設定の趣旨 本研究のねらいは、生徒一人一人の個に応じたきめ細かな指導の工夫と、生徒自身が各種の課題に対して積極的に取り組み「確かな学力」の向上を目指すことである。そのために、「勉強が好き」「勉強がわかる」授業により、学ぶ楽しさを体験させ、学習意欲を向上させることが大切であると考え、本テーマを設定した。

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・全学年・全教科 学力向上を図るためには、全学年・全教科で取り組むのが効果的であると考えたため。
--

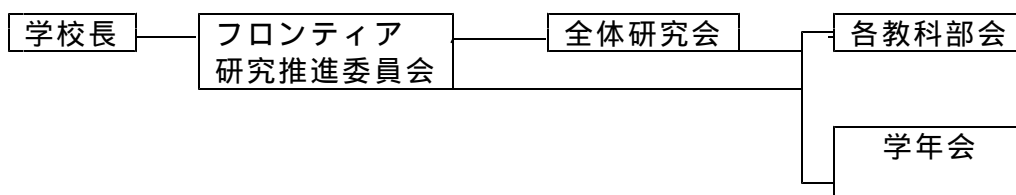
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	○テーマ 学習意欲を高める指導の工夫		
	○研究の見通し(仮説)		
	仮説1「教材教具の開発」 現代の生徒が興味・関心の持てる教材・教具を身近なものから手作りで示せば、より意欲的に取り組む生徒が育つだろう。		
	仮説2「指導法の工夫」 個に応じた発展的な学習や、習熟度別学習を行えば積極的・意欲的に取り組む生徒が育つだろう。		
	仮説3「評価の工夫改善」 評価の項目や目標をはっきりさせることで見通しが持て、意欲的に取り組む生徒が育つだろう。		
○研究の内容・方法			
[学年・学級] 朝学習を活用した小テストの実施(各教科の評価に組み込む) 夏休みにおける補充教室の実施 質問教室の設置と実施			
[教科]			
	教材教具開発	指導法・指導体制	評価方法
国語	ワークシート、手作りカード等	課題選択学習	自己評価と相互評価
社会	興味・関心を高める身近な教材	基礎・基本の定着と達成感・成就感	自己評価と評価規準
数学	模型、カード、プリント等手作り教材	少人数指導(習熟度別)、課題学習	ポートフォリオ、評価規準
理科	興味関心を高める身近な教材(実験)	選択実験や実験等のレポート	自己評価と評価規準

英語	補助プリント、ワークシート	活発なコミュニケーション活動に向けて	自己評価と評価規準
音楽	鑑賞教材	専門分野の社会人の活用、世界音楽への発展	自己評価、聴取力評価、評価規準
美術	個々の能力に応じて取り組める題材	個々へのより細かな指導	デジタルポートフォリオ、自己評価の項目の工夫
保健体育	学習ノートやワークシートの開発	個々を見つめた発展的な学習	自己評価と評価規準
技術家庭	興味・関心が持てる楽しい教材、基礎的スキルが身に付く教材	実習グループの教え合い学習と個別指導 技能定着を図る指導 作品の展示と発表	自己評価、製作過程での評価、評価規準
<p>[選択教科]</p> <p>スクールサポーター（ユース）の活用</p> <p>選択教科の工夫 1年：3教科9講座（基礎・補充） 2・3年：9教科15講座（数・理・英の1講座は基礎・補充）</p>			

平成16年度	<p>○テーマ</p> <p>学習意欲を高める指導の工夫</p> <p>○研究の見通し（15年度の研究を継続し、さらに仮説4を付加）</p> <p>仮説4 学級・学年を学びの共同体として育成する手だてを工夫すれば、学習に意欲的に取り組む生徒が育つだろう。</p> <p>○研究の内容・方法</p> <p>[学年]</p> <p>総合的な学習 目標や全体計画の工夫・改善 選択教科 習熟度別授業や発展的な学習の改善 朝学習 評価に関連した取り組みと工夫 学習状況連絡表 内容の改善と活用方法の研究</p> <p>[教科]</p> <p>教材教具の開発 効果的な個に応じた指導法の工夫 評価法の工夫・改善 学習企画や教科目標に沿った授業の改善 意欲を高める少人数授業の工夫 授業研究（公開授業）の実施とまとめ 学力診断テストの実施 学校外の優れた社会人の活用</p>
--------	---

（3）研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

研究成果（アンケート結果等の分析による成果と課題）○成果と 課題

< 国語科 >

個々の能力や意欲に応じて選択できるように多くの課題を設定した。

選択国語においては、自己評価で「自主的に取り組めたか」「学習目標に到達したか」を毎時間評価させながら、意欲的に学習させた。

「家庭学習の内容がわかりやすい」が後期には減少し、それに伴って「家庭学習をたいていやっている」生徒の割合も減少している。現在おおむね家庭学習に頼っている漢字練習などは、もっと期間を区切って、家庭で学習するきっかけを与えるなどの手だてを考えたい。

< 社会科 >

前期のアンケート結果を受け、より一層わかる授業を目指して、基礎・基本の定着を心がけた。そのため、単元の反復学習をより多く取り入れ、結果として、後期では成果が見られたと考えている。

家庭学習における課題の明確化や板書の工夫など、個々の生徒がより意欲を持てるように取り組んでいきたい。

< 数学科 >

週3時間の少人数学習をしている1年生では、「授業がとてもよくわかる」50%、「わかる」30%という結果になっており、2・3年生と比較しても充分成果が出ている。2年生も、「授業がとてもよくわかる」30%、「わかる」50%と、週1時間の授業でもかなり成果が出ている。

3年は学習内容が難しいことや、進度が速いためか、やや満足度は低い。3年では後期は「わからないところは聞く」項目は、10%程度上がっている。質問したり調べたりして、もっともっと力を付けたいという意識がでてきている。

< 理科 >

どの学年も「授業の進度が適切である」というポイントが高い。そのため、前期に比べ「授業がわかる」というポイントが増えている。

実験等のレポートを一人一人が書くことで、個々の理解度を上げることができた。

1・2年は「質問、発表しやすい」のポイントが低く、質問しやすい雰囲気を作っていくことが課題である。

< 英語科 >

新しい学習の内容を場面に応じて使えるようにするために、できるだけ多くのコミュニケーション活動を授業に取り入れた。

1・2年生の後期のアンケートでは、「授業がわかる・勉強が好き」の割合が、前期と比べて減少している。苦手意識の克服法を研究しなければならない。

< 音楽科 >

どの学年も、前・後期とも、「授業がとてもよくわかる」「わかる」、「勉強がとても好き」「好き」がともに70～80数%を占めている。

「授業進度」では80～90%ということで問題ないように見えるが、時数削減に伴って、教師側は苦しい教材選択や時間配分を迫られていることが現実である。定期テストの有無も研究したい。

< 美術科 >

デジタルポートフォリオの活用により、各時間の一人一人の生徒の活動を記録することができ、それによって多数の生徒の制作過程を把握することができた。また、この作業によって、必ず各時間生徒にアドバイスすることができた。

教師側は、どの活動をどう評価するか。生徒は、各題材の目標に対し、自分がどの程度達成できたかを理解するための、自己評価の評価項目の工夫を行った。

項目を工夫しても、評価の時間をきちんと取り、説明しながら評価させることの時間的な問題点をどうするか。

生徒のポートフォリオにより、題材の目標を理解させ、意欲的に取り組むことができた。

評価項目について活動中に意識させる工夫。

< 保健体育科 >

おおむね勉強が好きという生徒が多い。

能力差に対して、いかにそれぞれの生徒を満足させることができるか。

< 技術・家庭 >

作業実習グループでの教え合い学習により、疑問点が解消でき、作業能率が上がり、意欲が増した。

実習や生活に生かせる学習の充実のために、教科書以外の内容も取り上げているが、時間がかかり、限られた履修時間の中では、生徒の負担増になっているようである。プレゼンテーションソフトの利用の応用として、総合的な学習の発表に活用させることができた。

生徒の進度の差をどう克服するか。

実習室の環境整備を進め、作業しやすい環境作りを行った。

どの生徒にも成就感を味わわせることができるような教材の工夫。

学力把握のための学校としての取り組み

ア 知識・理解について

- ・定期テスト（前期：中間テスト 6月上旬、期末テスト 9月上旬）
（後期：中間テスト 12月上旬、期末テスト 3月上旬）

- ・実力テスト

イ 意欲について

- ・学校生活アンケート、学校教育活動と学習意欲アンケート（7月・12月）
- ・保護者向け学校生活アンケート（7月・12月）
- ・学校自己評価（7月・12月）

ウ 考える力・生きる力

- ・総合的な学習の自己評価、まとめ

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

授業参観週間・文化祭週間や学校開放日など、適宜保護者や地域に研究の成果を発信している。

15年度のまとめを各校に配布するなどして普及にあたりたい。

平成16年11月19日に公開授業を予定している。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- | | | | | |
|----------------------|---|---|--|--|
| 【新規校・継続校】 | <input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 6 学級以下 | 7～12学級 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 13学級～18学級
25学級以上 | 19学級～24学級 | | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導
一部教科担任制 | T.Tによる指導
その他 | | |
| 【研究教科】 | <input checked="" type="checkbox"/> 国語 | <input checked="" type="checkbox"/> 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 数学 | <input checked="" type="checkbox"/> 理科 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 外国語 | <input checked="" type="checkbox"/> 音楽 | <input checked="" type="checkbox"/> 美術 | <input checked="" type="checkbox"/> 技術家庭 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 保健体育 | <input checked="" type="checkbox"/> その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | 無 | | |